

第3次宇都宮市地域教育推進計画 後期計画実施状況

基本目標	施策	No	重点新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業		
								年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等				
【基本目標】一人ひとりが自己の実現や生活の向上・地域社会の発展に向けて主体的に学習活動に取り組んでいます	●	1		生涯学習センター等における学習機会の充実	すべての市民の主体的な学習活動を促進するため、市民ニーズや時事的テーマを捉え、様々な世代の学習意欲を高める多様な学習機会を提供する。	生涯学習課(図書館)	生涯学習センター等における講座の受講者数(人)	実績	25,063	35,322	42,617						A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・企業や大学等と連携した講座や、子どもから大人まで多世代間で交流できる講座など、多様な学習機会を提供することで、受講者の学習意欲向上に寄与した。 ・全体として働き世代の受講者が少ない傾向があることから、参加しやすい開催日時等も検討しながら、より多くの方に参加してもらう講座を展開していく必要がある。 [今年度の取組み方針] ・すべての市民が生涯を通じて学ぶ楽しさを感じ、豊かな人生をおくることができるよう、引き続き企業・大学との連携や多世代間交流を通じた仲間づくりにつながる講座や、生活課題や社会的課題の解決に資する講座などを開催し、市民の学習機会の提供に取り組む。	【デジタル】 スマホ基礎講座(継続) スマホステップアップ講座(継続)など 【読書】 読書推進講座(中央) ビジネス関連講座(東) 家庭生活支援講座(南) 【大学等】 企業体験教室(継続) ふれあい子育て広場(継続)など	
		2		デジタル技術を活用した学習、読書機会の充実	誰もが、いつでもどこでも学べる機会や環境の充実に向け、YouTube、Zoom等を活用した講座の提供に加え、デジタル技術を活用した読書機会の充実、情報提供等に取り組む。	生涯学習課(図書館)	デジタル技術を活用し提供した学習機会(数)	実績	17	29	42						A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・参集型とオンライン型(ZoomやYouTube等)での講座の配信など、学習の機会を拡大している。 ・今後は、参集型とオンライン型(ZoomやYouTube等)での講座の配信などの利点を生かした講座を展開する必要がある。 [今年度の取組み方針] 参集型とオンライン型を組み合わせたハイブリッド型の講座の開催など、双方の利点を見極めて実施方法を工夫した講座を実施するほか、スマホ等の情報教育の推進を目指した講座の企画・実施に取り組む。	【デジタル】 シニア向けプログラミング入門講座(西:新規) スマホステップアップ講座(豊郷:新規) スマホ基礎講座(継続) 【読書】 ・宇都宮市電子図書館 運用 ・図書館情報・講座の動画配信 ・マルチメディアデジタイズの活用 【大学等】 スマホ基礎講座(継続)	
		3		健康づくりを支援する取組の充実	学習を通じた市民の健康づくりの支援に向けて、生活習慣の改善や運動に関する講座の開催、介護予防に取り組む自主グループの活動支援などに取り組む。	生涯学習課(図書館) 高齢福祉課	生涯学習センター等における健康づくり講座の実施回数(回)	実績	39	43	40							B 計画どおり		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・青少年から高齢者まで幅広い世代を対象に、健康体操や食育、フレイル予防に関する講座など、健康に関する多様な講座を開催し、学習を通じた市民の健康づくりに寄与した。 ・更なる市民の健康づくりに向け、引き続き関連する講座を実施していく必要がある。 [今年度の取組み方針] ・市民一人ひとりが、健康で生きがいのある生活が送れるよう、各生涯学習センターにおいて、楽しみながら継続できる運動に関する講座のほか、生活習慣の改善、認知症予防など、社会課題として捉えられている内容の講座も積極的に開催していく。高齢者だけでなく、親子など、幅広い世代に向けた内容を企画し、健康づくりのきっかけとなる機会を創出する。また、介護予防に取り組む自主グループの活動支援など、幅広い世代を対象に健康づくりを支援する取組の充実を図る。	【デジタル】 読書 ・医療・健康情報講座(中央) ・家庭生活支援講座(南) ・スポーツ関連事業(河内) 【大学等】 子育て広場(中央) 親子でDoing(東) 健康講座(南) ふれあい子育て広場(清原) など
		4		宇都宮市民大学の充実	市民が学んだ成果を地域等に還元し、地域社会の活性化や持続的発展を図るため、高度な専門的な学習ニーズに応える学習機会を提供する。	生涯学習課	市民大学受講者数(延べ人数)	実績	960	2,122	822							B 計画どおり	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・専門講座では、定員の増員などにより前年度よりも受講者数が増え、より多くの市民に学習機会を提供することができた。 ・また、学習効果の高いワークショップや館外学習を積極的に取り入れたことで、受講者から高い満足度を得ることができた。 ・公開講座では、バリエーションに富んだ講師の起用により、幅広い年代層から申込みがあり、新規受講者の獲得や宇都宮市民大学の周知につなげることができた。 (受講者アンケートでは、専門講座・公開講座とも学んだ成果と講座の満足度に関する肯定的な回答がともに全体の9割超) ・幅広い市民に向け学習機会を提供するためには、体験学習を取り入れた講座内容の充実や実施方法の工夫により、多様な学習機会の確保を図る必要がある。 [今年度の取組み方針] ・市民の学習機会に応えるため、引き続き、体験学習を取り入れた講座の企画・運営により、学習内容の充実を図るとともに、講座企画・運営ボランティアスタッフへの活動支援による提案講座の充実を図る。	【デジタル】 ・講座のオンライン配信の導入検討(継続) 【読書】 ・講座関連図書の出し入れ、「ブックリスト」の配布(継続) 【大学等】 ・大学等との連携講座の実施 ・「食・健・音」で人生の道ご方より豊かに(宇都宮短期大学連携講座) タイトル未定(宇都宮大学連携講座)
		5		生活課題解決型講座の充実	市民が学習を通して自らの生活を改善し、より豊かな人生を送ることができるよう、具体的な生活課題の解決に資する講座を実施する。	生涯学習課(図書館)	生活課題解決型講座受講者数(人)	実績	2,206	2,250	2,575							A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・市民がより豊かな生活を送ることができるよう、地域や企業等と積極的に連携し、防災や健康づくりの講座やスマートフォン操作の基礎講座など、生活課題の解決に資する講座を実施した。 ・自らの生活を改善できるような、現代の社会情勢や課題を的確に捉えながら講座を企画・運営に取り組む必要がある。 [今年度の取組み方針] 地域住民が抱える様々な課題や社会情勢に対応した講座を企画することで、市民の生活課題の解決に向けた講座の充実に取り組む。	【デジタル】 いまいきニアアップ講座(中央)(継続)など ・ロングライフ支援講座(東図書館) 【読書】 シニア世代応援講座(中央) ・家庭生活支援講座(南) 【大学等】 西条アカデミー(西)(継続) 北洲塾(北)(継続)など
		6		読書活動の充実	市民の誰もが生涯にわたり読書活動に親しむことができるよう、気軽にかつ快適に図書館を利用することができる読書環境の充実や、読書意欲を喚起する事業に取り組んでいく。	図書館	図書館利用者数(人)	実績	863,175	1,005,712	939,056							A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・関係機関と連携した企画展示や、ライトライン開業1周年記念事業として関係課と連携して実施した「ライトライン開業1周年記念しおり」配布(限定3万枚)により、来館を促すことができた。 ・電子書籍貸出サービスについては、SNSや講座参加者へのPR等により市民周知を強化し、利用を促進した。 ・市民の読書意欲を喚起させる取組については、継続的な新しい情報発信と、発信手法・周知方法の工夫が必要である。 [今年度の取組み方針] ・来館を促すきっかけづくりとなるような関係機関等と連携した企画展示や催しを開催するとともに、図書館情報の発信においては、対象年齢や内容にあわせた効果的な手法を選択し、デジタル・紙媒体それぞれの利点を生かした広報活動を進める。また、SNSや図書館HPを活用し、魅力ある読書情報の発信に取り組む。 ・電子書籍貸出サービスについては、利用登録者数の増えに取組むとともに、同時に何人でも読める小中学生向けの児童書読み放題バッグを新たに導入し、利用促進を図っていく。	【デジタル】 ・オンライン利用者登録 ・バーチャル図書館である「Web書棚」 ・スマートフォンでの利用カード表示 ・「宇都宮市電子図書館」運用 【読書】 ・企画展示、特集 ・各種ブックリスト作成とWebの機能を活用した情報発信 ・新聞・雑誌等外部媒体における図書館の情報や読書情報の発信 【大学等】
		7		子どもの読書活動の推進	「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、すべての子どもたちが、自ら読書活動に親しむことができるよう、「うつつのみやこども賞」事業など、子どもの読書習慣を育む機会の充実を図るとともに、読書の重要性の発信に取り組む。	図書館	児童書の貸出冊数(冊)	実績	1,330,627	1,407,494	1,368,828							B 計画どおり		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・おはなし会や小中学生向け講座など、例年どおりに定員を徐々に増やすなど、参加機会の増加を図ることができた。 ・「うつつのみやこども賞40周年記念事業」として、記念式典の開催や、全図書館での「うつつのみやこども賞」巡回展、小中学校図書館・民間施設・生涯学習センターで展示や特集を行ったほか、記念誌を発行し、式典参加者のほか市内小中学校や県内図書館に配布した。記念事業を通じて本市独自の取組みである「うつつのみやこども賞」事業を市内外に周知し、子どもに向けた読書啓発の機会を創出することができた。 ・「MIYATEEN編集委員会」では冊子の発行に加え、SNSの活用や新しい情報発信等を行える場を創出することができ、近隣の高校との連携講座の開催など、高校生が参加する図書館事業を実施することができた。 ・また、子どもの読書活動を支える地域の大人にも、読書の重要性の発信などに取り組むことができた。 ・デジタルを活用した取組として、「U@りんくす」での司書によるおすすめ本ライブ配信を行った。 ・子どもの読書活動を推進するため、各事業の認知度をさらに高めていく必要がある。 [今年度の取組み方針] ・「おはなし会」や「小中学生向け講座」を継続的に開催する。 ・「うつつのみやこども賞」では、通年の選定会議を開催するとともに、第41回受賞者の表彰や記念講演会を実施し、事業の周知に努める。 ・「MIYATEEN」編集委員会事業では、冊子の作成のほか、引き続きSNS等を活用した情報発信を行うとともに、近隣高校との連携講座等を開催する。 ・子どもを取り巻く大人に、読書の楽しさや重要性について、さらなる理解を深めるための講座を実施する。	【デジタル】 ・「U@りんくす」でのおすすめ本ライブ配信 【読書】 ・おはなし会 ・小中学生向け講座 ・うつつのみやこども賞事業(中央) ・MIYATEEN編集委員会事業(中央) ・高校との連携講座、連携事業(東・南) ・子どもと子どもの本をつなぐ講座(中央) 【大学等】

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業						
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等								
社会性を高める学習の推進 (施策2)		8	●		コミュニケーション力向上学習の推進	日常生活や地域、職場など、様々な場所で誰でも良好な人間関係を築き、協働できる力を育むため、多様な人とのグループワークや意見交換などを通じたコミュニケーション力の向上に資する学習機会の充実を図る。	生涯学習課	参加交流型学習の実施回数	実績	46	54	60							A 計画以上	○			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをテーマとした講座に加え、様々な講座で参加交流型学習を積極的に取り入れることにより、受講者のコミュニケーション力の向上するための参加者同士の交流機会を設けた講座の充実を図った。</li> <li>・引き続き学習を通じた「仲間づくり」にもつながることから、講座を充実させていく必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人が直接交流することに加え、デジタルを活用した交流機会も提供し、受講後も交流を継続していただける講座を実施していく。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>				
					情報教育の推進	進歩するデジタル技術の恩恵を誰もが享受し、活用していくことができるよう、情報機器を使えない人などのデジタルデバイスに対応する学習や、情報ソフトの操作、情報モラルの育成など、社会で求められる能力を身につけられる学習機会の充実を図る。	生涯学習課(視聴覚) デジタル政策課 みんなでまちづくり課	スマホ、パソコンなどを使って学ぶ講座の受講者数(人)	実績	565	542	999									A 計画以上	○	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターにおいて、全館で初心者向けのスマホ基礎講座を開催するほか、電子申請共通システム、公共施設予約システム、地域内交通予約・配車システムなど本市のWEBシステムの利用方法を説明する内容の講座も実施した。</li> <li>・令和7年度より公共施設予約システムが全センターで導入されており、利用者からのスマホを用いた予約に関する問い合わせ等増加していることから、引き続きスマホ基礎講座の実施などのデジタルデバイス対策に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル社会での生活に必要なスキルを身につけるため、スマホ基礎講座や初心者パソコン相談会の実施、宮デジサポーターの養成に取り組む。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>		
					学び直しの支援	スキルアップや再就職等に向けた学び直しを支援するため、大学等の高等教育機関が実施する公開講座等の情報提供を行うほか、高等教育機関と連携し、社会人や高齢者等の学び直しの機会の拡充を図る。また、不登校経験者や外国人など、十分な学力を身につけられなかった人の学び直しについても、支援を検討する。	生涯学習(図書館) 教育企画課	学び直しのプログラム回数(回)	実績	-	2	6										A 計画以上	○	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・大学等と連携した学び直しのプログラムを年2回(前期・後期)令和6年度以降は毎年相手先を1つずつ追加していき、令和9年度には行政が主体から企業主体での形に移行するため令和8年度と同数を企業主体で実施</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの市民がリカレント教育に興味を持ち、学び直しに取り組むことができるように、大学や企業と連携しながら事業を展開し、周知啓発などにも取り組んでいく。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>	
					大学生等の参加による多世代交流の推進	社会性の向上や地域共生の意識を育むため、関係機関や大学、地域団体等と連携し、子どもの体験活動などを通して、子ども、大学生等の若者、地域の大人など多世代が交流する機会を創出する。	生涯学習課(図書館)	大学生等が参加した子どもの体験活動実施回数(回)	実績	9	12	11											A 計画以上	○	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内大学や高校の学生が参加し、青少年向けのものづくり、SNSで地域の魅力を発信する講座等を実施した。</li> <li>・実施後のアンケートから、リカレント教育の認識の低さや、学び直しに関するプログラムの受講希望もあつたため、より効果的なリカレント教育に係る重要性や意識醸成を図れる事業を展開する必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を通じ、学生と地域住民・子どもが協力や交流する講座を開催し、質の高い学習機会を創出する。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>
					子どもの体験活動・体験学習機会の充実	小学生が「自分の将来の夢を見つけるきっかけを提供するため、店舗や工場などにおいて実際の仕事の体験や見学、学びの機会を提供する職業体験「宮っこトライ」を全市域で毎年実施する。また、多様な体験を通して豊かな人間性、規範意識を育むため生涯学習センター等において、自然体験、ものづくり体験等の学習機会を提供していく。	子ども政策課 生涯学習課(図書館)	宮っこトライの参加人数	実績	100	406	333											C 計画より遅れ		○		<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業体験協力事業者の確保と併せて、参加者である小学校4年生から6年生に対しチラシを2回配布するなど、事業周知に努めることができた。</li> <li>・より多くの小学生に様々な職業を体験してもらえよう、協力事業者の更なる確保を図るとともに、参加する小学生の増加を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生における体験機会の創出や職業観の醸成に向け、商工会議所や商工会などと連携しながら「宮っこトライ」協力事業者の更なる拡充を図るとともに、参加者に対しメールやSNSを活用した事業周知を実施し、より多くの参加者を募る。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>
人づくり啓発事業の実施	市民一人ひとりの人づくりに対する意識の高揚を図り、人間力の高い、心豊かてたくましく人づくりを推進するため、学校・家庭・地域等に対する「宮っ子の誓い」及び「子どもの手本となる50の言葉」の普及啓発や人づくりフォーラムの実施などの人づくりの啓発事業を行う。	教育企画課	人づくりフォーラムの参加者数(人)	実績	661	1,500	5,000											A 計画以上	○	○		<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人づくりフォーラムでは、会場を普段の利用者の多い南図書館としたことで、参加者も増加し、市民一人ひとりの人づくりへの意識啓発の機会となった。</li> <li>・また、人づくりフォーラムなどのイベントを活用し、宮っ子の誓い大使への活動機会を提供するとともに、『子どもの手本となる50の言葉』などの本市の人づくりの取組については展示等を通して周知啓発を図った。</li> <li>・「うつのみや人づくり推進委員会交付金」により実施する人づくりフォーラムについては、所期目的の達成に向けて、社会全体で人づくりを推進していくため、今後も充実した内容で安定的に実施していき、より多くの団体や企業の賛同を得ていく必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な企業等から協力・参加を得られるよう周知に努め、より多くの市民が人づくりの重要性の再認識と自発的・継続的な行動を起こすきっかけとなるよう、イベント内容の充実を図り、家庭や地域、学校、企業、行政が連携協力した社会総ぐるみによる人づくりを推進する。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <p>【読書】</p> <p>【大学等】</p>					

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値									目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業		
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	デジタル	読書			大学等						
社会的課題に対応した取組の推進 (施策3)	● ●	8(9)	● ●	● ●	情報教育の推進	進歩するデジタル技術の恩恵を誰もが享受し、活用していくことができるよう、情報機器を使えない人などのデジタルデバイスに対応する学習や、情報ソフトの操作、情報モラルの育成など、社会で求められる能力を身につけられる学習機会の充実を図る。	生涯学習課(視聴覚L) デジタル政策課 みんなでまちづくり課	スマホ、パソコンなどを使って学ぶ講座の受講者数(人)	実績	565	542	999							A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] -生涯学習センターにおいて、会館で初心者向けのスマホ基礎講座を開催するほか、電子申請共通システム、公共施設予約システム、地域内交通予約・配車システムなど本市のWEBシステムの利用方法を説明する内容の講座も実施した。 -令和7年度より公共施設予約システムが全センターで導入されており、利用者からのスマホを用いた予約に関する問い合わせ等増加していることから、引き続きスマホ基礎講座の実施などのデジタルデバイス対策に取り組む必要がある。 [今年度の取組み方針] デジタル社会での生活に必要なスキルを身につけるため、スマホ基礎講座や初心者パソコン相談会の実施、宮デジサポーターの養成に取り組む。	[デジタル] スマホ基礎講座(継続) パソコン講座(視) [読書] ロングライフ支援講座(東団) [大学等] 初心者パソコン相談会(継続)		
					「うつつのみやデジタルスクエア」の運営	地域活動団体等のデジタルへの興味・関心を高めるとともに、デジタルの活用に向けて一歩踏み出せる場、デジタル化に係る交流を生み出す場として「うつつのみやデジタルスクエア」(WEBサイト)の運営やセミナーの開催、対面支援に取り組む。	デジタル政策課	「うつつのみやデジタルスクエア」におけるデジタル活用事例の掲載数(件/累計)	実績	9	18	26								A 計画以上	○			[昨年度の評価(成果や課題)] 各事業を関係課と連携しながら実施し、延べ26件のデジタル活用事例を掲載した。 今後は、デジタル活用の実践事例等については市HPへ掲載し、地域活動団体へのデジタル活用支援については、「宮デジサポーター」の活動や「地域活動団体デジタル活用補助金」等の支援メニューが充実していることから、令和6年度をもって、当該事業を終了することとした。 [今年度の取組み方針] -	[デジタル] [読書] [大学等]	
					環境学習の推進	「もったいない」のこころをもって主体的な環境活動の促進を図るため、幅広い年代に対する学習機会と場の提供に取り組む。	環境創造課	環境出前講座開催数(回)	実績	43	35	62									A 計画以上	○	○		[昨年度の評価(成果や課題)] -各課や企業、大学等と連携し、小学校からシニア層まで幅広い世代を対象に学習機会を提供できた。 -目標値を達成することができたが、更なる開催数の増加に向け、ターゲットに応じた効果的な周知が必要である。 [今年度の取組み方針] -HPやチラシ、「みやエコっ子通信」等様々な機会を活用し、講座の内容や対象の学年・年齢等が分かりやすく伝わるよう周知する。 -ニーズが増加傾向にある放課後子ども教室に対し、コーディネーター向け研修会等の場を活用し、周知する。	[デジタル] -オンラインによる申し込みや講座の実施(継続) [読書] [大学等] -企業等と連携した講座を実施(継続)
					障がい者の文化・スポーツ講座事業の充実	障がい者の社会参加を促進し、障がい者の福祉の増進に寄与するため、教養、文化及びスポーツに関する各種講座を開催する。	障がい福祉課 生涯学習課	教養・文化及びスポーツに関する講座回数(指定管理施設指定事業実施回数、小学校出前教室実施回数、障がい者スポーツ体験会実施回数)	実績	71	99	114									A 計画以上	○			[昨年度の評価(成果や課題)] -指定管理施設の講座については、とちぎ国体やパラバリンピック等をきっかけとしたスポーツ参加意欲の向上が続いていることや新型コロナウイルス等の感染症が落ち着いたことにより、各種講座開催数について、目標を達成することができた。 -小学校への出前教室については、盲導犬ふれあい教室に加え、障がい者当事者を講師とした講話や障がい者スポーツ体験会を実施し、幼少期からの障がいへの理解を促進を図ることができたことから、引き続き、理解促進につながる取り組みを継続する必要がある。 -障がい者スポーツ体験会については、モルック体験会2回、パラ卓球体験イベント1回を開催し、多くの市民が障がい者スポーツを体験することができた。 [今年度の取組み方針] -指定管理施設の講座については、令和6年度に日本肢体不自由者卓球協会と連携協定を締結し、今年度よりパラ卓球教室を新設する等講座内容の充実を図る。また、サン・アビリティーズにおけるスポーツ関連講座の参加促進のため館内掲示板、HP、SNSを積極的に活用し、周知活動に注力していく。 -小学校への出前教室については、さらなる理解促進を図るため、引き続き、盲導犬ふれあい教室や障がい者当事者を講師とした講話、障がい者スポーツ体験会の実施に取り組む。 -障がい者スポーツ体験会については、広く市民へ対し障がい者への理解促進を図るとともに、幅広い年代の市民が参加できる体験会の実施に取り組む。	[デジタル] [読書] [大学等] パラ卓球体験イベント パラ卓球教室
					学び直しの支援	スキルアップや再就職等に向けた学び直しを支援するため、大学等の高等教育機関が実施する公開講座等の情報提供を行うほか、高等教育機関と連携し、社会人や高齢者等の学び直しの機会の拡充を図る。また、不登校経験者や外国人など、十分な学力を身につけられなかった人の学び直しについても、支援等を検討する。	生涯学習(図書館) 教育企画課	学び直しのプログラム回数(回)	実績	-	2	2									A 計画以上	○	○		[昨年度の評価(成果や課題)] -宇都宮大学や青年会議所と連携し、リカレント教育モデル事業として、社会人向けにワークショップを交えた講演会を実施した。 -実施後のアンケートから、リカレント教育の認識の低さや、学び直しに関するプログラムの受講希望もあつたため、より効果的なリカレント教育に係る重要性や意識醸成を図れる事業を展開する必要がある。 [今年度の取組み方針] 多くの市民がリカレント教育に興味を持ち、学び直しに取り組むことができるように、大学や企業と連携しながら事業を展開し、周知啓発などにも取り組んでいく。	[デジタル] [読書] [大学等] 大学等と連携したリカレント教育
					様々な困難を有する人の学習活動への支援	高齢者や障がいのある人、経済的・家庭的な困難を有する人など、学習活動に参加することが困難なあらゆる人々への学びの機会や場を提供する。	生涯学習課(図書館)	様々な困難を有する人への学習提供回数(回)	実績	15	15	19									A 計画以上	○	○		[昨年度の評価(成果や課題)] -読書機会の少ない子ども等への読書情報の提供の一つとして、特別支援学校や福祉施設を対象としたおはなし会や本の貸出を行うアウトリーチサービスを実施した。また、教育センターと連携し、デジタル適応支援教室「U@りんくす」でオンライン図書館見学やライブ配信でおすすめ本の紹介に取り組んだ。また、初心者パソコン相談会を毎月実施し、パソコン相談に関するニーズに応えるとともに更なる学習活動の促進に取り組んだ。 -高齢、障がい、家庭環境など、抱える困難の違いにより適切なアプローチを確立させ、生きがいある豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる人々への学びの機会や場を提供する必要がある。 [今年度の取組み方針] -様々な困難を抱える市民に向け、マルチメディアデジター図書や電子書籍等のデジタル資料のより効果的な提供方法を検討するほか、大活字本や朗読CD等アクセシブル資料の周知強化に取り組む。また、新たに障がい者の就業情報提供などの支援について検討を進める。 -来館が困難な人や読書機会が少ない市民に向けて、福祉施設・特別支援学校等に職員が出向き、図書の貸出、読書情報の提供、おはなし会などのアウトリーチサービスを行っていく。 -初心者パソコン相談については、引き続き、困難を有する人の学習機会の提供の提供に取り組んでいく。 -様々な困難を抱える人々については、そのニーズや状況に応じた支援に取り組む、安心して学習できる環境を整えていく。	[デジタル] [読書] 電子書籍貸出サービス [読書] 読書機会が少ない人へのアウトリーチサービス [大学等] -バリアフリー映画会(河内団) [大学等]
					人権教育の推進	市民一人ひとりの人権意識を高めるため、ヘイトスピーチやLGBT、虐待等、特定の人権問題から、思いやりの心を育む人権一般まで、イベントや講座等を通じた意識啓発に取り組む。	生涯学習課 多文化共生推進課	生涯学習センターにおける人権に関する講座実施回数(回)	実績	3	7	7									A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] -生涯学習センターにおいて、人間関係や国際文化などをテーマに、人権についての理解を深める講座を実施した。 -図書館においても、青少年自立支援・宇都宮大空襲などに関する本の展示を行った。 -引き続き、人権について理解を深める講座を実施し、人権教育の啓発に努める必要がある。 [今年度の取組み方針] 生涯学習センター等が開催する講座等の中でアイスブレイクなどを活用しながら人権教育に関する学習を取り入れ、受講者が身近な人権問題を正しく理解し、関心を高めるよう促していく。	[デジタル] [読書] 人権(青少年自立支援・宇都宮大空襲など)に関する本の展示(継続) [大学等]
					超高齢社会に対応した学習の推進	高齢者が様々なサービス等を利用し、安心して暮らせるよう、介護保険や医療制度など、高齢者が必要とするサービスや、知っているだけで役立つ新しい情報などについて、各種講座や講演会を開催する。	生涯学習課(図書館) 高齢福祉課	生涯学習センター等における高齢者を対象とした講座の実施回数(回)	実績	68	79	86									A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] -生涯学習センターにおいて、趣味教養や地域学、防災、健康など多岐にわたる内容の講座を実施し、高齢者が安心して暮らせる環境づくりや高齢者の仲間づくりに寄与した。 -来たる超高齢社会に向け、引き続き高齢者向けの講座を実施していく必要がある。 [今年度の取組み方針] 全センターでスマホ基礎講座を実施するほか、受講者のレベルに応じたステップアップ講座を実施する。また、地域の魅力発見や地域課題解決などの講座も充実させることで、高齢者の学習意欲を向上させ、仲間づくりや生きがいづくりへと繋げていく。	[デジタル] スマホ基礎講座(継続) [読書] -シニア世代応援講座(中央団) -ロングライフ支援講座(東団) [大学等] さわやか倶楽部(雀宮・継続) ことぶき塾(横川・継続) など
					多文化共生に向けた教育の推進	言葉や生活習慣の違いなど互いの文化的違いを認め合い、地域の一員として共に生き、共に支え合う意識を醸成するため、国際交流や多文化共生に関する学習機会の提供を推進する。	生涯学習課(図書館) 多文化共生推進課	生涯学習センター及び国際交流プラザにおける国際理解・多文化共生に係る講座実施回数(回)地区数	実績	15	21	24									A 計画以上		○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] -企業、団体等の関係機関と連携し、多文化共生を理解する体験活動等の講座を実施することで、多文化共生に関する学習機会を提供した。 -センターと連携し、市民の国際理解・多文化共生について意識醸成を図る講座を実施するとともに、講座等の実施に当たっては、参加者に多文化共生の理解を促すため、参加者同士や講師と交流機会を設ける必要がある。 [今年度の取組み方針] 開催にあたっては、外国の料理や文化を知る講座だけでなく、地域課題に即した国・テーマの選択や、外国人と日本人の交流機会の提供など、共生の地域づくりに資するよう実施内容を工夫する。	[デジタル] [読書] 世界の絵本を楽しまう(東団) -英語のおはなし会(東団) [大学等] 親子トイ&ゴー(西・継続) 親子トイ&ゴー(西・継続) わくわく体験教室(豊野・継続)など
					外国人住民の生涯学習の推進	外国人住民に日本文化の食や伝統に親しみってもらうとともに、日本文化体験を通じて市内に住む日本人と外国人が交流する機会を創出する。	生涯学習課(図書館) 多文化共生推進課	国際理解・多文化共生に係るイベント実施回数(回)	実績	1	1	1									A 計画以上				[昨年度の評価(成果や課題)] [読書] -図書館利用案内及び図書館ホームページの多言語対応 -図書館利用案内の「やさしい日本語版」対応 [大学等] [多文化] 多文化共生を推進するため、引き続き、外国人の日本文化理解のための事業の開催支援に取り組む	[デジタル] [読書] [大学等]
ワーク・ライフ・バランスの理解に向けた啓発事業の実施	働き方の見直しや家庭・地域への参画促進のため、仕事と育児・介護等の両立や男性の家庭参画、女性リーダー養成など講座の充実を図ると、仕事と生活の調和に向けた普及啓発を行う。	女性活躍推進課	ワーク・ライフ・バランスに関する講座の実施回数(回)	実績	7	7	7									A 計画以上	○	○		[昨年度の評価(成果や課題)] -勤労者が働き方を見直し、ワーク・ライフ・バランスを推進するきっかけとなるよう、男性の家庭参画を促進する体験型講座を開催したほか、男女共同参画推進センターにおいて企業や大学(関係機関)等と連携し、「子育て中の女性見よう仕事を始める前に知っておきたいこと」や「なりたいたい自分になるヒント」などのセミナーを開催したことから目標を達成することができた。 -引き続き、男性の育児休業取得促進など、改正育児・介護休業法や国の方針等を踏まえながら、ワーク・ライフ・バランスの推進に向け、各種講座等を実施していく必要がある。 [今年度の取組み方針] -勤労者自身等が働き方を見直し、ワーク・ライフ・バランスを推進するきっかけとなるよう、勤労者を対象とした啓発セミナーを引き続き実施する。 -法改正などを踏まえ、より多くの参加者を得られるようテーマや内容の充実を図りながら各種講座等を実施する。	[デジタル] [読書] [大学等]					

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業				
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等						
【基本目標2】地域・学校・家庭が相互に連携・協力し、地域全体で学び合い育ち合う教育活動に取り組んでいます	(施策4)	23	●		「親学」の推進	家庭の教育力の向上を図るため、保護者が集まる機会を捉えた親学に関する講話等の実施や情報誌の発行などに取り組む。	生涯学習課	親学出前講座の実施件数(件)	実績	79	85	81						第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画にて令和9年度の目標値を120件としており、目標達成するよう、各年度で10件増加としたため。	B 計画どおり	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親学出前講座について、情報誌を活用した周知や、保護者会や就学時健康診断などの機会を生かした講座の実施に取り組み、家庭教育支援の充実が図られた。</li> <li>親学出前講座の利用促進を図るためには、SNS等を活用した周知を行うとともに、実施時間や講座内容などが申込者の要望に沿ったものとなるよう、講座の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の教育力の向上に向け、講座活用について、関係各所へ直接働きかけを行うとともに、引き続き、家庭教育支援ボランティアや企業等との連携し、受講者の反応や受講者アンケートの結果を踏まえ、講座内容の充実を図る。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請システムによる参加申込のオンライン化</li> </ul> <p>【読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業等連携講座の実施(16講座)</li> </ul> <p>【大学等】</p>			
					家庭での読書習慣を育む取組の充実	家庭での読書習慣を育み、子どもが継続的に本に親しむきっかけづくりのため、集団読書のブックリスト配布や生涯学習センターを含めた読み聞かせ、保護者のグループや育児サークルを対象とした出前講座等の事業の充実を図る。	図書館	乳幼児対象事業への参加者数(人)	実績	949	1,347	1,617								R9年度に、コロナ以前の参加者数(約4,500人)に対して約60%(2,700人)まで回復させることを目標とし、年に400人の増を目指していく。	A 計画以上		○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館において「0・1・2歳児向けおはなし会」とともに「あかちゃんタイム」を実施し、「0・1・2歳おはなし会スペシャル」を開催した。</li> <li>図書館において「はじめてえほん事業」では、読み聞かせの体験ができるように「ちっちゃなおはなし会」として対象センター11か所ですべて予定通り開催するとともに、「親学出前講座」と連携している「出前講座」では、申請先の対象年齢など希望に合わせて実施することができた。</li> <li>乳幼児とその保護者の読書習慣を育むため、センター図書館と連携していくなど、参加者の増加を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定例の「0・1・2歳のおはなし会」や「ちっちゃなおはなし会」を継続実施するとともに、開催場所の見直しや周知の工夫をするなど、参加人数の増加を図る。</li> <li>出前講座においては、親学出前講座とも連携しながら、事業の周知を図り、参加者数を伸ばすことで家庭での読書環境の充実を支援していく。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0・1・2歳児向けおはなし会</li> <li>はじめてえほん事業</li> <li>図書館出前講座プログラム「ウチでもどこでも読み聞かせ」</li> </ul> <p>【大学等】</p>	
					家庭教育支援活動者の育成	社会全体で子育て中の親を支える取組の充実を図るため、地域においてきめ細かな支援を行う家庭教育支援活動者を育成する。	生涯学習課	家庭教育支援活動者登録者数(人)	実績	26	27	25									各地域で相談や講座支援等に対応できるようにするため。	B 計画どおり	○		<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの家での子育て支援事業や講座の企画・体験を含めた実践的な研修会を実施するとともに、実際に活動者が中心となって進める講座を実施することで活動機会を提供することができた。</li> <li>地域における家庭の教育力向上に向け、引き続き、研修会の実施や活動機会の提供により、家庭教育支援活動者を育成する必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育支援活動者の人材確保のため、情報誌や周知チラシ等を活用し、家庭教育に関する講座や研修会等家庭教育支援活動者の役割や活動内容、やりがいについて周知する。</li> <li>家庭教育支援活動者の活動機会を提供するため、能動的なアウトリーチ型支援を実施するとともに、必要な知識や技能の習得につながる実践的な研修会を実施する。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>kintonetによる参加申込のオンライン化</li> </ul> <p>【読書】</p>
					アウトリーチ型家庭教育支援の推進	地域ぐるみで親子の育ちを支え、家庭の教育力の向上を図るため、関係部署との連携やイベントでの相談ブースの設置などによるきめ細かな家庭教育支援に取り組む。	生涯学習課 子ども支援課	アウトリーチ型家庭教育支援相談件数(件)	実績	3	13	4									アウトリーチ型のきめ細かな家庭教育支援により、家庭の教育力向上を図るため。	C 計画より遅れ	○		<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>庁内関係課と連携した事業の周知や相談事業の実施などに取り組み、きめ細かな家庭教育支援を実施することができた。</li> <li>保護者に寄り添った家庭教育の支援のため、アウトリーチ型の家庭教育支援の周知により一層取り組み必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報誌やSNSを活用した周知を積極的に進め、講座などに参加が困難な保護者にも参加しやすい小中学校等での行事に合わせた能動的なアウトリーチ型支援を実施し、相談窓口の拡充を進める。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メール相談の実施による相談のオンライン化</li> </ul> <p>【読書】</p>
27		●		家庭教育支援講座の充実	子育て家庭の家庭教育に対する意識の高揚を図るとともに、親力の向上を図るため、保護者の気づきを促す講座や親子双方の育ちを支援するための講座などについて、地域で育成した人材を活用し、充実を図る。	生涯学習課(図書館)	家庭教育支援に係る講座等の実施回数(回)	実績	52	50	62						生涯学習センターにおける家庭教育支援に関する講座の実施数実績を元に、各年度2回ずつ段階的な増加を目指す。	A 計画以上	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センターにおいて、子育て世代向けに、子どもとの接し方やレクリエーション、自然体験に関する講座を実施したほか、保育士への相談会や親同士の交流機会の創出を行った。また、図書館においては子育て支援講座、家庭生活連携講座を開催した。</li> <li>家庭教育に対する意識の高揚や親力の向上を図るため、引き続き子育て世代向けの講座を開催する必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の教育力向上を目指し、子育て世代の悩み解決や、親の気づきを促す講座などを開催し、参加者間の交流の場を提供することで、孤立しがちな子育て世代のコミュニティの形成を促進する。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援講座(東)</li> <li>家庭生活連携講座、家庭生活連携講座(南)</li> </ul> <p>【大学等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て広場(中央:継続)</li> <li>子育て子育て講座(東:継続) など</li> </ul>				
				宮っこの居場所づくりの推進	子どもの関係性の貧困の解消に向けて、子どもが気軽に立ち寄ることができる場所において、遊びや食事、イベントなどの体験を提供することにより、子ども同士や地域の人との交流の機会を確保する。また、居場所子どもを見守ることを通じて支援が必要な子どもを把握し、個々の状況に応じた専門機関へのつなぎを行う。	子ども政策課	宮っこの居場所の開設か所数	実績	24	44	42								令和13年度までに全小学校区に子どもの居場所を1か所以上開設する(第6次総合計画改定基本計画に計上)。	A 計画以上	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より身近な地域における利用しやすい居場所の設置を促進するため、市民や団体等向けに居場所づくり事業の周知を行ったほか、居場所の運営者に対する寄附金の分配基準の見直しを行い、開設・運営に係る経費の支援を充実した。また、「宮っこの居場所づくりスタートブック」を活用し、居場所を始める前に確認するポイントや必要な準備、開設や運営に対する支援などを紹介した。</li> <li>身近な地域において、子どもが気軽に居場所を利用できるよう、さらなる設置数の拡大を図る必要がある。また、既存の居場所について、利用者の状況に応じた支援や安定的な運営の支援ができるよう、事業者等に対する金銭や物品等の寄附の周知を強化していく必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、関連団体への周知や地域への出前講座の実施などにより、市民や団体等の事業への理解促進や居場所設置の機運醸成を図るとともに、「宮っこの居場所づくりスタートブック」の活用や開設準備講座の開催、専用の相談窓口での支援などを通して、居場所の設置促進を図っていく。</li> <li>「宮っこの居場所ネットワーク会議」において、情報交換や研修等を行うことにより、運営スタッフの資質向上と居場所間の連携強化を図る。</li> <li>また、社会福祉協議会や大学等と連携しながら、居場所のボランティア確保等に努めることで、運営体制の強化を図っていく。</li> <li>既存の居場所に対し、安定的に寄附金や寄附物品の分配を実施できるよう、商工会議所や商工会の会員事業者に対する周知を実施するとともに、SNS等も活用し周知の強化を図る。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開設準備講座(継続)</li> </ul> <p>【読書】</p>		

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業								
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等										
地域ぐるみによる教育活動の充実 (施策5)	●	29			魅力ある学校づくり 地域協議会活動の充実	地域の実情に応じて「魅力ある学校づくり地域協議会」が活動を円滑に実施するため、地域学校協働活動推進員の育成や「魅力ある学校づくり地域協議会」の組織強化・活動支援に取り組む。	生涯学習課 学校教育課	魅力ある学校づくり 地域協議会による活動回数(回)	実績	19,963	22,680	22,522							A 計画以上				第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画にて令和9年度の目標値を23,000件としており、目標達成するよう、各年度で約600件増加としたため。				【デジタル】 【読書】 【大学等】			
								[参考]目標		20,565	21,170	21,775	22,380	23,000																
										実績	54	57	58						A 計画以上					全校実施に向け、計画的に実施校区を拡大していく。				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
										[参考]目標		56	57	58	59	60														
										実績	16	18	23							B 計画どおり					未実施校を対象に意向調査を実施するとともに、地域の実情に応じた支援を実施することにより、令和7年度には市内全中学校区にて魅力協主体で実施できる見込みであるため。				【デジタル】 【読書】 【大学等】	
										[参考]目標		20	24	25	25	25														
		30			宮っ子ステーション事業の充実	放課後における児童の健やかな育成のため、「子どもの家」と「放課後子ども教室」を一体的に実施し、地域、学校等と連携して、児童の安全安心な居場所を創出する宮っ子ステーション事業の充実を図る。	生涯学習課	放課後子ども教室実施校数	実績	54	57	58						A 計画以上					令和6年度は、地域と連携のもと新たに1校での放課後子ども教室の立ち上げを行うとともに、既に実施している学校においても、企業の視点(専門体験)を取り入れながら、様々な活動を通して児童の自主性や社会性の向上に取り組んだ。 地域によっては、担い手の不足や高齢化により、事業の企画立案の負担が大きい。活動アドバイザーの活用などにより、負担軽減を推進し、子どもたちの体験の場の更なる充実を図る必要がある。				【デジタル】 【読書】 【大学等】			
									[参考]目標		56	57	58	59	60															
		31			地域における 学習支援活動の推進	地域の中学生の学習習慣の定着のため、「魅力ある学校づくり地域協議会」が地域のニーズに応じて自主的に取り組む学習支援活動「地域未来塾」を支援する。	生涯学習課	地域未来塾実施校数(校)	実績	16	18	23							B 計画どおり					未実施校を対象に意向調査を実施するとともに、地域の実情に応じた支援を実施することにより、令和7年度には市内全中学校区にて魅力協主体で実施できる見込みであるため。				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		20	24	25	25	25															
		32			学校図書館と連携した 読書環境の充実	小中学校での子どもの読書活動や学習活動を支援するため、学校図書館と連携し、授業に役立つ資料や情報の提供、学校図書館職員やボランティアの育成・支援に取り組む。子どもの読書環境の充実を図る。	図書館 学校教育課	学校希望図書利用件数(冊)	実績	1,357	1,445	1,360							B 計画どおり					コロナやGIGAスクールの影響により落ち込んだ学校希望図書の利用件数を平成29年度から令和3年度までの平均1,405件まで戻す。				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		1,367	1,376	1,386	1,395	1,405															
		33			「地域未来会議」の推進	将来、多様な人々と協働して課題解決していくことができる資質・能力を育むため、各中学校において、生徒が地域の方々と議論する「地域未来会議」に取り組む。	学校教育課	地域未来会議実施校数(校)	実績	18	25	25							A 計画以上					市立中学校全25校での実施				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		25	25	25	25	25															
		34			「街の先生」 活動事業の推進	学校における様々な教育活動等に地域の教育力を生かした教育を実践するため、各学校が教育活動のねらいに即して登録者リストの中から支援等を要する活動内容に適した者を選び、「街の先生」として活用する。	学校教育課	街の先生支援人数(延べ人数)	実績	4,733	4,805	4,843							B 計画どおり					多くの学校で地域の教育力を生かした教育活動が展開されたが、学校間で活用状況に差が見られたため、より多くの学校での積極的な活用を促す必要がある。				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		4,800	4,850	4,900	4,950	5,000															
		35			子育てサロンの推進	地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、子育ての相談指導・育児不安の解消など、地域における子育て家庭に対する支援を推進する。	保育課	子育てサロンの登録者数(人)	実績	3,941	5,314	5,181							A 計画以上					第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画にて令和9年度の目標値を5,730人としており、目標達成するよう、登録者の増加を年平均6.5%としたため。				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		4,468	4,784	5,100	5,415	5,730															
		40(3)			人づくり啓発事業 の実施	市民一人ひとりの人づくりに対する意識の高揚を図り、人間力の高い、心豊かでたくましい人づくりを推進するため、学校・家庭・地域等に対する「宮っ子の誓い」及び「子どもの手本となる50の言葉」の普及啓発や人づくりフォーラムの実施などの人づくりの啓発事業を行う。	教育企画課	人づくりフォーラムの参加者数(人)	実績	661	1,500	5,000							A 計画以上					令和元年度実施時の人数を基に、今回行う事業内容に照らし合わせて算出したもの				【デジタル】 【読書】 【大学等】		
									[参考]目標		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500															

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業						
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等								
【基本目標3】多様な主体や人がつながりを深め、様々な場面で学んだ成果を生かして活動しています (施策6)	多様な主体による学習機会の提供	36	●		NPO・大学・企業等と連携した学習の推進	学習者の学習成果を活用する場の拡大に向け、企業・団体等の持つ最新技術や情報、ノウハウなどを生かした学習を通して、企業・団体等と地域や学習者の結びつき機会の創出を図る。	生涯学習課(図書館)	企業等と連携した講座開催数(講座)	実績	127	139	144									令和3年度の実績を基に、毎年企業等との連携を着実に実施し、年間140講座の開催を目指す。	A 計画以上	○	○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・市内の様々な大学、企業、地域の活動団体等と連携し、多様な講座を展開することで高度な学習の推進を図るとともに、企業等が地域と関わる機会の創出に取り組んだ。 ・地域団体や大学・専門学校、企業など、内容に応じて様々な組織と積極的に連携し、質の高い講座の提供するとともに、学習を通して学校や企業、地域が関係を深めるきっかけを作っていく必要がある。  [今年度の取組み方針] 大学や企業等の持つノウハウを生かした講座や、学校や企業、地域が接する学習機会を提供し、学習者との結びつきを創出していく。	【デジタル】 ・スマホ基礎講座(継続) 【読書】 ・栃木県立博物館市町連携事業(中央図) ・ビジネス支援関連講座(東図) 【大学等】 ・企業体験教室(清原:継続) ・ワクワク体験教室(豊郷:継続)など	
		37			社会教育関係団体との連携	地域における様々な教育活動を活性化するため、地域の社会教育活動の牽引役である社会教育関係団体との意見交換や共催事業の実施など緊密な連携を図る。	生涯学習課(図書館)	社会教育関係団体と連携し実施した事業数(事業)	実績	42	42	36									実績を元に、各年度1回ずつ段階的な増加を目指す。	B 計画どおり		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・多様な学習活動や指導者育成、ボランティア活動などに取り組む社会教育関係団体と連携し、各種出前講座やラジオ体操講習会などの事業を実施した。 ・引き続き、地域における教育活動の活性化を図るため、社会教育団体と意見交換を行いながら、活動を支援していく必要がある。  [今年度の取組み方針] 引き続き、多様な学習活動や指導者育成、ボランティア活動などに取り組む社会教育関係団体の自発的な活動を支援するとともに、関係各所へ直接働きかけを行い、社会教育関係団体と連携した事業を継続的に実施する。	【デジタル】 ・子どもの本の勉強会(宇都宮子どもの本連絡会主催・中央共催) ・文芸講演会(宇都宮ずいひつの会主催・中央共催) 【大学等】	
		40(5)	●		環境学習の推進	「もったいない」のこのころをもって主体的な環境活動の促進を図るため、幅広い年代に対する学習機会と場の提供に取り組む。	環境創造課	環境出前講座開催数(回)	実績	43	35	60										R7は環境計画目標値 R5・6は実績ベースで積算	A 計画以上		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・各課や企業、大学等と連携し、小学校からシニア層まで幅広い世代を対象に学習機会を提供できた。 ・目標値を達成することができたが、更なる開催数の増加に向け、ターゲットに応じた効果的な周知が必要である。  [今年度の取組み方針] ・HPやチラシ、「みやエコっ子通信」等様々な機会を活用し、講座の内容や対象の学年・年齢等が分かりやすく伝わるよう周知する。 ・ニーズが増加傾向にある放課後子ども教室に対し、コーディネーター向け研修会等の場を活用し、周知する。	【デジタル】 ・オンラインによる申し込みや講座の実施(継続) 【読書】 【大学等】 ・企業等と連携した講座を実施(継続)
		38			高齢者の生きがいづくりの推進	高齢者が心身ともに健康で充実した高齢期を過ごすことができるよう、生涯学習センターや老人福祉センターにおいて、健康や趣味の講座の開催、看護師による健康相談などを実施する。	高齢福祉課 生涯学習課	老人福祉センター延べ利用者数(千人)	実績	157	167	171											にっこり安心プラン	C 計画より遅れ		○		[昨年度の評価(成果や課題)] 高齢者の健康づくりや生きがいづくりを支援するため、市内5カ所の老人福祉センターにおいて、健康づくりや趣味の講座の開催や、看護師による健康相談、教養の向上及びレクリエーションのために施設を提供できた。 また、施設利用者の多くが高齢者や障がい者など感染リスクの高い方が占めているため、コロナ禍以降、利用者個人が慎重になっていると考えられるが、利用者数は回復傾向にあるため、引き続き、利用者数を増加させることが課題である。  [今年度の取組み方針] 世代間交流事業の企画やスマートフォン・アプリ講座、eスポーツ体験会の企画など、地域のニーズに応じた事業に取り組み、利用者数の増加に務める。
39			みやシニア活動センター事業の実施	豊富な知識や経験を持つシニア世代が一層活躍できるよう、相談窓口の開設や各種講座や交流会を企画実施するなど、第二の人生を健康でいきいきと暮らすことができるよう支援する。	高齢福祉課	みやシニア活動センター事業参加者人数	実績	1,024	1,446	1,204											総合相談、企画事業(定期講座・講演会等)、ネットワーク会議等の実施	A 計画以上		○		[昨年度の評価(成果や課題)] 一昨年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、利用者数が急増した。その反動で、昨年度は、やや利用者は減少したものの、高齢者の健康づくりや生きがいづくりを支援するための各種健康づくりや趣味の講座の開催、栃木県シニアサポーターによるふれあい村事業について、認知度は高まり、関係団体とのネットワークを強化しつつある。  [今年度の取組み方針] センター事業を支援している栃木県シニアサポーターとの連携を図り、シニア世代の一次的相談機関としてアンテナを高くして幅広い利用者ニーズにも対応できるように務める。	【大学等】 高齢福祉課窓口での相談、市立図書館等での出張相談、ライフプラン支援講座、地域デビュー講座、シニア講演会	
40			地域スポーツクラブの育成支援	子どもから高齢者まで、市民の誰もが、競技レベルや目的などに応じて、継続してスポーツに親しむことができるよう、地域住民が主体的に運営し、市民の健康づくりや生きがいづくり等に寄与する地域スポーツクラブの設立・運営を支援する。	スポーツ都市推進課	地域スポーツクラブがカバーする地域数	実績	11	11	12											R7以降、関係計画改定に伴い目標値修正	C 計画より遅れ				[昨年度の評価(成果や課題)] ・広報紙へのクラブ紹介記事の掲載や総合型地域スポーツクラブフェスタを行うなど、周知啓発を行った。 ・クラブの運営の安定化に向けた「活動支援補助金」・「活性化補助金」・「地区追加補助金」の3つの補助制度の活用を促し、全てのクラブに対して補助を実施した。 ・総合型地域スポーツクラブの設立にあたっては、発起人会・設立準備委員会の設置など、地域内の合意形成が必要不可欠であることから、クラブの設立に興味のある地区で、スポーツ推進委員や地区団体をはじめ、まちづくり協議会や連合自治会への説明会等を行うなど、積極的な支援を実施することができた。 ・令和5年度から新たに創設した「地区追加補助金」の活用をクラブや地域に促進し、1地域が追加となった。 ・新たに宇都宮市スポーツ振興財団による既存クラブへの支援として、各クラブの事務支援や財団職員によるスポーツ教室の開催などを実施できた。 ・民間のスポーツクラブの増加や、個人で身近に行えるスポーツへの関心の高まりなどもあり、カバー地域数は近年までほぼ横ばいが続いているため、引き続き、更なるカバー地域の拡大に向けた取組が必要である。  [今年度の取組み方針] ・既存クラブの活性化を図るとともに、新規クラブの立ち上げに向けて、地域住民の機運が醸成されるよう、継続的に各種団体などに働きかけや、課題解決に向けた助言・支援を行う。特に、北西部地域体育施設の整備を契機として、藤井、富屋、国本地区のクラブ設立に向けた機運を高めていく。 ・総合型地域スポーツクラブがカバー地域を拡大した場合の運営を支援する「地区追加補助金」の活用を促進し、カバー地域の拡大を推進するため、未カバー地域への対応の方向性やスケジュールについて検討を行い、計画的なカバー地域の拡大につなげる。 ・令和6年度から新たに開始したスポーツ振興財団による既存クラブへの支援を引き続き実施し、クラブ運営安定化への支援強化を図る。	【デジタル】 【読書】 【大学等】	

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業							
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等									
地域で活躍する人材の育成 (施策7)	● ●	41	● ●	● ●	地域の教育活動の担い手の育成	地域で子どもを育む教育活動の充実に向けて、活動の中核を担うコーディネーターを育成・支援するプログラムの実施や、学んだ成果を地域の教育活動へと生かしていくための仕組みづくりに取り組む。	生涯学習課	地域における学習支援活動や体験活動等に参加している活動者数	実績	26,287	29,482	30,201							A 計画以上				<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会ごとに、実施手法などを工夫することにより、多様な地域人材の協力を得て協議会活動を行うことができた。</li> <li>地域の子どもたちを心豊かにたくましく育むためには、地域の特色を生かした多様な活動を担う人材を育成する必要がある。</li> <li>令和6年度は、放課後子ども教室のコーディネーターを対象に、2回研修を実施した。また、未実施校については、立ち上げに関する丁寧な説明や個別相談を実施するとともに、実施校については、意見交換やヒアリングを実施し、コーディネーターの育成・支援に取り組んだ。</li> <li>地域によっては、担い手の不足や高齢化が進行しているため、活動の中核を担うコーディネーターの育成・支援を行い、子どもたちの体験の場の更なる充実を図るため人材を確保していく必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ぐるみの子育てをより一層推進するため、大学等への働きかけにより地域活動の担い手となるボランティアの確保に取り組むとともに、研修会等の開催により地域学校協働活動推進員等の資質向上に取り組む。</li> <li>放課後子ども教室のコーディネーターを対象に、活動の充実に向けた様々な研修を実施していくとともに、未実施校についても、地域や学校に出向いての丁寧な説明や立ち上げに関する課題の解決に向けた個別相談などにより、コーディネーターとなる人材を育成・支援し立ち上げに繋げていく。</li> </ul>	【デジタル】 【読書】	【大学等】				
		42			まちづくりに携わる人材の育成	学んだ人がその成果を地域で発揮し、地域コミュニティの活性化へと結びつくよう、まちづくりセンターや生涯学習センター等において、地域活動やNPO活動などについて学ぶ講座、スマートフォンの操作方法などを教える地域のボランティア「宮デジサポーター」を養成する講座等を実施するとともに、実際に地域における活動にまぎれなく仕組みづくりに取り組む。	生涯学習課 みんなてまちづくり課 デジタル政策課	まちづくりに携わる人材育成等の講座の開催数	実績	-	5	4								A 計画以上	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育実習生が生涯学習課および豊郷生涯学習センターと連携し、生涯学習課においては宮の朝活、豊郷生涯学習センターにおいてはスマホ基礎講座の企画・運営を通じ、地域活動に携わる人材の育成に取り組んだ。</li> <li>宮デジサポーター養成講座については、全3回講座を前期・後期で開催し、地域で活躍する人材の育成に取り組んだ。</li> <li>学んだ人がその成果を地域で発揮し、地域コミュニティの活性化へと結びつける意識の醸成を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センターと社会教育実習生が連携し、地域の人の交流をととして、地域について学び、改めて地域の魅力を発信し、地域活動のきっかけとなる講座等の取組を実施する。</li> </ul>	【デジタル】 宮デジサポーター養成講座(継続) 【読書】	【大学等】 社会教育実習生による講座企画・運営(新規)				
		43			●	●	読書活動を支援するボランティアの育成	読み聞かせや障がい者サービス等読書推進に関わるボランティアを確保するため、研修会等を行い人材の育成に取り組む。	図書館	図書館ボランティア登録者のべ人数(人)	実績	369	330	364							B 計画どおり		○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おはなしボランティアについては東図書館にて養成講座を開催し、音訳・点訳奉仕員については市で開催する養成講座にて活動場所として図書館を紹介する機会により、新規申込者を呼び込むことができた。</li> <li>高齢化や定年延長の影響等によりボランティアの担い手が減少傾向にあるため、継続的に活動していただくための支援が必要である。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に新規のボランティアには継続的に活動しやすい体制を整えていくほか、養成講座や勉強会、研修会等を開催し、さらに活動を行う人を増やしたり活動を支援したりできる場を提供していく。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【おはなしボランティア勉強会】 【音訳奉仕員研修会(中央)】 【点訳奉仕員研修会(中央)】 【大学等】		
		44					若者ボランティア認定制度	地域活動の新たな担い手の確保・育成を図るため、高校生や大学生等の継続的なボランティア活動への参加を促進するもの	みんなてまちづくり課	みよのまち活担い隊認定数【単位:人】	実績	-										E 評価困難			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民協働のまちづくりの拠点施設である「まちづくりセンター」において、若者ボランティア認定制度を見据え、若者を対象とした「ボランティア体験プログラム事業」などに取り組み、高校生や大学生など、多くの若者(270名)を呼び込むことができた。</li> <li>参加者に対して「ボランティア活動証明書」を交付し、参加意欲の醸成を図った。</li> <li>引き続き、大学生等の若者のボランティアへの参加促進につながる効果的な仕組みや環境づくりに取り組む必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、大学生等の若者のボランティアへの参加促進につながる仕組みや環境づくりに向け、まちづくりセンターの指定管理者をはじめ、関係者と意見交換をしていく。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】	
		45			●	●	障がい者の意思疎通を支援する人材の育成	障がい者の円滑なコミュニケーションを支援し、的確に情報を取得・伝達できるように、音訳、点訳、手話奉仕員などの養成に取り組む。	障がい福祉課	手話奉仕員養成講座修了者数【単位:人】	実績	36	56	41								C 計画より遅れ		○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚・視覚障がい者等に対する知識や手話などの技術に精通した関係団体(宇都宮市社会福祉協議会、宇都宮市障害者福祉会連合会)と連携を図りながら、各種講座を実施し、奉仕員を養成することができたが、手話奉仕員の養成講座については、テレビドラマの影響を大きく受けた令和5年度から修了者数が減少したことから、様々な機会を活用し、各種奉仕員養成講座の周知を行い、受講者の増加を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奉仕員養成講座修了者数の増加を図るため、団体と連携し、令和7年11月に東京で開催されるデフリンピックを契機と捉えるなど、様々な機会を活用し、各種奉仕員養成講座の周知に取り組む。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】 音訳奉仕員養成講座 点訳奉仕員養成講座 手話奉仕員養成講座	
		46					学び直しの支援	スキルアップや再就職等に向けた学び直しを支援するため、大学等の高等教育機関が実施する公開講座等の情報提供を行うほか、高等教育機関と連携し、社会人や高齢者の学び直しの機会の拡充を図る。また、不登校経験者や外国人など、十分な学力を身につけられなかった人の学び直しについても、支援等を検討する。	生涯学習(図書館)教育企画課	学び直しのプログラム回数(回)	実績	-	2	2									A 計画以上	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業・大学等と連携した学び直しのプログラムを年2回(前期・後期)令和6年度以降は毎年相手先を1つずつ追加していき、令和9年度には行政が主体から企業主体での形に移行するため令和8年度と同数を企業主体で実施</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの市民がリカレント教育に興味を持ち、学び直しに取り組むことができるように、大学や企業と連携しながら事業を展開し、周知啓発などにも取り組んでいく。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】 大学等と連携したリカレント教育
		47			●	●	家庭教育支援活動者の育成	社会全体で子育て中の親を支える取組の充実を図るため、地域においてきめ細かな支援を行う家庭教育支援活動者を育成する。	生涯学習課	家庭教育支援活動者登録者数(人)	実績	26	27	28								B 計画どおり		○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの家での子育て支援事業や講座の企画・体験を含めた実践的な研修会を実施するとともに、実際に活動者が中心となって進める講座を実施することで活動機会を提供することができた。</li> <li>地域における家庭教育力向上に向け、引き続き、研修会の実施や活動機会の提供により、家庭教育支援活動者を育成する必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭教育支援活動者の人材確保のため、情報誌や周知チラシ等を活用し、家庭教育に関する講座や研修会等で家庭教育支援活動者の役割や活動内容、やりがいについて周知する。</li> <li>家庭教育支援活動者の活動機会を提供するため、能動的なアウトリーチ型支援を実施するとともに、必要な知識や技能の習得につながる実践的な研修会を実施する。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【kinfontelによる参加申込のオンライン化】 【読書】	【大学等】
		48					子どもの体験活動指導者の育成	地域の教育力向上を図るため、地域で子どもと関わる地域活動の実践者等を対象とした、体験活動に関する知識や技術の習得に資する講座等を通して、子どもの体験活動指導者を育成する。	生涯学習課	研修会等参加者数(延べ人数)(人)	実績	31	17	20									A 計画以上			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年指導員等を対象に体験活動に関する知識や技術の習得に資する研修(視察研修・実技研修)を開催したことにより、子どもと関わる地域活動における体験活動指導者の育成が図られた。反面、研修の参加者が減少傾向にあることから、引き続き研修への参加を促す必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、青少年指導員を対象に体験活動に関する知識や実践的な指導法などを習得できる研修等を実施するとともに、研修の内容や日程等を工夫することにより、参加者の増加にも取り組んでいく。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】
49	●	●	社会教育主事の養成・活躍促進	市民の学習活動の推進や、学校・家庭・地域の連携促進のため、大学と連携した養成事業を実施するとともに、各生涯学習センター等における地域との連携窓口としての中心的な役割を担うなど、活用促進を図る。	生涯学習課	生涯学習センターに配置されている社会教育主事の有資格者数(人)	実績	18	18	18								A 計画以上			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域教育推進の中心的な役割を担う社会教育主事を育成するため、宇都宮大学が主催する社会教育主事講習に職員を派遣し、社会教育主事有資格者の養成に取り組んだ。</li> <li>講習期間が長期になることから、生涯学習センター職員が受講しやすい環境整備が必要となる。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育主事の資格取得に意欲がある生涯学習に携わる職員が確実に受講につながるよう、講習期間中の生涯学習センター等の業務に対する支援を実施する。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】 社会教育主事講習					
48			講座企画・運営ボランティアスタッフの育成	各生涯学習センター等において、地域の実態を踏まえた講座を実施するため、講座の企画立案から、広報・実施までを行う人材を育成する。	生涯学習課	講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了者数(人)	実績	9	9	13										A 計画以上			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期計画においても減少する登録者数ではなく養成講座終了者数としており、過去5年間の平均(6.2人)を上回るボランティアスタッフの着実な養成を目指すこととしたため。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者の学ぶ意欲を高めるため、先輩スタッフとの交流や市民大学の運営補助を通して、講座の企画・運営を実際に学ぶなど、充実した講座の実施に取り組む。</li> </ul>	【デジタル】	【読書】	【大学等】			

基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業		
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等				
郷土愛や地域理解を促進する取組の推進 (施策8)	●	49			地域学・宇都宮学講座等の充実	郷土愛や住民意識を醸成し、地域づくりやまちづくりの取組を促進するきっかけとするため、全ての市民が地域課題や魅力を発見・共有する「地域学」、本市独自に創設した、宇都宮の歴史や文化を知る「宇都宮学」講座等を実施する。	生涯学習課(図書館) みんなでまちづくり課	地域学講座、宇都宮学講座等の受講者数(人)	実績	1,011	1,353	1,630						A 計画以上		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・生涯学習センターで開催する様々な講座において、地域理解につながる内容を取り入れ、改めて自分の住む地域に目を向ける機会、考える機会をつくった。 ・実施にあたり、地域への興味や関心を促すだけでなく、受講者が地域の課題に気づき、課題解決に向けた主体的な学習・活動へ結び付くことが必要である。 [今年度の取組み方針] 地域理解につながる内容を講座に取り入れ、改めて自分の住む地域に目を向ける機会、考える機会を創出し、地域課題解決に向けた主体的な学習・活動へ結び付け、地域を支える人材の育成ができていくよう取り組んでいく。 また、図書館においても、～	[デジタル] ・スマホステップアップ講座(新規) 【読書】 ・みや学講座(中央・南) ・うつのみやの魅力再発見(東) 【大学等】 ・清原の魅力を発信しよう(継続) ・まるごと横川(継続)	
		50			地域かがやきプロジェクト事業の推進	地域課題等について地域住民が改めて考え、取り組むきっかけをつくるため、地域学などとの連携を図りながら、地域での「学習」と「活動」の循環を意識した講座を実施する。	生涯学習課	地域かがやきプロジェクト活用事業数(事業)	実績	14	17	20						A 計画以上		○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] ・生涯学習センターで開催する様々な講座において、地域理解につながる内容を取り入れ、改めて自分の住む地域に目を向ける機会、考える機会をつくった。 ・地域への興味や関心を促すだけでなく、受講者が地域の課題に気づき、課題解決に向けた主体的な学習・活動へ結び付けていく必要がある。 [今年度の取組み方針] 地域理解につながる内容を講座に取り入れ、改めて自分の住む地域に目を向ける機会、考える機会を創出し、地域課題解決に向けた主体的な学習・活動へ結び付け、地域を支える人材の育成ができていくよう取り組んでいく。	[デジタル] スマホ講座(瑞穂野) 【読書】 【大学等】 防犯UP講座(豊郷) くもど生き生き教室(国本)	
		51			「二十歳を祝う成人のつどい」における地域交流事業の推進	二十歳の門出を地域を上げて祝い励ますとともに、地域社会の一員としての自覚や、地域に育てられたことへの感謝の気持ちを持てるようにするため、地域の特色を活かした教育的意義のある地域交流事業を実施する。	生涯学習課	参加者へのアンケートにおける地域交流事業に対する好意的な回答の割合(%)	実績	86	89	84						B 計画どおり		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・地域住民と二十歳となる成人により各中学校区実施委員会を組織し、地域交流事業の企画や式典の運営を行い、成人(二十歳)が地域住民から学び、改めてつながるとともに、地域社会の一員としての自覚を育むことができた。 ・受付を電子化したことにより、事前に参加者数の大まかな把握ができたほか、当日の入場手続きがスムーズになり、受付時間の短縮に繋がった。 ・ライトキューブでの開催中学校区を見直し、上河内中学校区をホテルマイステイズ宇都宮に移したことにより、ライトキューブの混雑が解消された。 [今年度の取組み方針] 今後も、地域住民と成人(二十歳)で構成する実施委員会による二十歳を祝う成人のつどいを継続し、地域と交流できる事業や、主役である成人(二十歳)の門出を祝えるような式典の実施を支援していくほか、当日の限られた時間で効率的な準備ができるよう、綿密な計画を立てる。	[デジタル] 受付の電子化(継続) 【読書】 二十歳を迎える成人に勧めたい本のリストをHPに掲載し、当日配布するチラシからアクセスできるようにする。 【大学等】 プログラムの作成について、デザインやイラストについて専門性やノウハウを持つ宇都宮メディア・アーツ専門学校に委託した。	
		52			地域資料の収集・提供事業の推進	地域の歴史・文化を次世代に伝えるため、地域資料の収集・保存・提供に取り組むとともに、貴重な資料をデジタル化し、データベースとしてインターネット公開を進める。	図書館 視聴覚ライブラリー	デジタル化した資料数(点)	実績	329	410	500							A 計画以上		○		[昨年度の評価(成果や課題)] ・図書館においては、貴重な地域資料(古文書)90点のデジタル化を行った。また、令和5年度のデジタル化資料81点をデジタルアーカイブにおいて公開した。 ・現在所蔵しているマイクロフィルムや古い地域資料の適切な保存・管理方法の検討が必要である。 ・視聴覚ライブラリーにおいては、開館当初から収集してきた映画フィルムやアナログ資料について、引き続き劣化状況に応じた対策を講じる必要がある。 [今年度の取組み方針] ・地域資料(古文書)のデジタル化とWeb公開作業を着実に進めるとともに、虫干しや書架の換気など地域資料の適切な保存・管理方法の整理に取り組む。また、地域資料の利活用を促すため、宇都宮ゆかりの著者・作品リストや宇都宮に関するブックリストの更新作業を行うほか、講座等事業において地域資料やデジタルアーカイブを紹介・活用していく。 ・マイクロフィルムをより適切な環境で保存するため保管用のキャビネットを更新するとともに、今後の地域資料の収集・保存方法を整理する。 ・視聴覚ライブラリーにおいては、地域映像教材保存事業を強化し、学校教育及び社会教育におけるメディア教育の振興を目指す。	[デジタル] ・貴重な地域資料のデジタルアーカイブ事業 【読書】 ・地域資料や「宇都宮市図書館デジタルアーカイブ」を活用した講座 【大学等】
		53			歴史文化資源周知啓発事業の推進	平成30年1月策定の「宇都宮市歴史文化基本構想」で定めた、「みんなでつなぐ 歴史文化の息づく交流都市宇都宮」の実現を目指し、「第2次宇都宮市文化振興基本計画」で掲げた「宇都宮文化の創造・継承」、「文化の力を活かしたまちづくり」を推進するための事業として、民間及び関係部署等と連携し感染症対策を実施しながら市民の歴史文化への興味関心を高める取り組みを体系的に推進する。	文化都市推進課	歴史文化資源の保存活用・周知啓発事業の延べ参加人数(人)	実績	31,254	32,155	33,794							A 計画以上		○	○	[昨年度の評価(成果や課題)] 文化財ガイダンス施設での企画展や講演会を開催することにより、宇都宮市の歴史や文化を市民が知り、興味関心が高まるように情報発信に取り組むことができた。また、各地区市民センターやまちづくり協議会などに協力し、地域に伝わる歴史や文化について講座を行うことができた。 [今年度の取組み方針] 引き続き文化財ガイダンス施設での企画展や講演会等を開催し、本市の歴史や文化について、広く情報発信をしていく。	[デジタル] ・VR体験(継続) 【読書】 【大学等】 ・企画展(継続) ・講演会(継続) ・出前講座(継続)
54			うつのみや伝統(ふるさと)文化継承事業の推進	市民が、本市の歴史や守り伝えられてきた民俗芸能・伝統行事等への理解を深め、郷土への誇りや愛着を醸成するため、宇都宮伝統文化連絡協議会と連携しながら、「ふるさと料理教室」「民話の集い」「伝統文化講座」「宮の祭り見学会」などの事業に取り組む。	文化都市推進課	伝統文化の普及啓発事業の回数(回) ・ふるさと料理教室 4回 ・民話の集い 12回 ・伝統文化講座 4回 ・宮の祭り見学会 3回	実績	17	22	23							A 計画以上		○		[昨年度の評価(成果や課題)] 本市に伝わる伝統文化を市民が知り、伝統文化を次世代に伝えていくことができるよう見学会や体験講座を定期的実施することができ、ふるさと料理講座を土日開催とすることで、様々な年代からの参加があった。 [今年度の取組み方針] 宇都宮伝統文化連絡協議会と連携し、伝統文化の専門的技術を有する個人・団体と市民を繋ぎ、講座等の実施を通して、伝統文化の周知啓発や継承に引き続き取り組む。	[デジタル] 【読書】 【大学等】 ・ふるさと料理教室(継続) ・民話の集い(継続) ・伝統文化講座(継続) ・宮の祭り見学会(継続)		



基本目標	施策	No	重点	新規	事業名	事業の内容	担当課	活動指標名(単位)	目標値							目標値設定の考え方	事業の進捗	後期計画の特徴			[昨年度の評価(成果や課題)]と[今年度の取組み方針]	目標達成に向けた事業					
									年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9			デジタル	読書	大学等							
学習活動を支える機能の充実 (施策10)		60	●		図書館レファレンスサービスの利用促進	市民や地域の課題解決を支援するため、有用な資料を収集するほか、調べものに役立つバスファインダーやブックリストの作成・提供、レファレンス事例の公開等、レファレンス機能の強化に取り組み、レファレンスサービスの利用促進を図る。	図書館	レファレンスサービスの満足度(%)	実績	94.5	96.1	89.8									毎年実施する図書館利用者アンケートで、レファレンスサービスを利用した人の満足度100%を目指す。	B 計画どおり	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」において、本市のレファレンス事例を新たに8件公開し、広く全国に向けて情報を供したほか、問合せに対してより速やかに多くの情報提供ができるよう、レファレンス記録方法の見直しを図り、過去の事例を活用しやすい環境を整えた。</li> <li>・市民や地域の課題解決の支援につながるよう、データベースやバスファインダー(調べ方案内)等の役立つツールの認知度を上げ、利用促進を図る必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関するレファレンス事例を中心に、レファレンス協同データベースで年15件以上の一般公開を行う。また、発信している情報の信頼性を高めるため、現在HPにて公開されているバスファインダーやブックリストの見直し、情報更新を行う。</li> <li>・市民や地域の課題解決のツールとして、各種データベースや国立国会図書館デジタルコレクション、図書館HPコンテンツなどを各図書館の催しや広報等で積極的に紹介し、図書館資源の利用機会の拡大につなげていく。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮に関するレファレンス事例集や新聞記事索引など、図書館ホームページコンテンツの充実</li> <li>・レファレンス事例の公開(国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例登録)</li> </ul> <p>【読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスファインダー(調べ方案内)、ブックリスト作成</li> </ul> <p>【大学等】</p>	
		60S2	●		地域資料の収集・提供事業の推進	地域の歴史・文化を次世代に伝えるため、地域資料の収集・保存・提供に取り組むとともに、貴重な資料をデジタル化し、データベースとしてインターネット公開を進める。	図書館 視聴覚ライブラリー	デジタル化した資料数(点)	実績	329	410	500									貴重な古文書等について、年に80件のデジタル化を進めていく。	A 計画以上		○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館においては、貴重な地域資料(古文書)90点のデジタル化を行った。また、令和5年度のデジタル化資料81点をデジタルアーカイブにおいて公開した。</li> <li>・現在所蔵しているマイクロフィルムや古い地域資料の適切な保存・管理方法の検討が必要である。</li> <li>・視聴覚ライブラリーにおいては、開館当初から収集してきた映画フィルムやアナログ資料について、引き続き劣化状況に応じた対策を講じる必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料(古文書)のデジタル化とWeb公開作業を着実に進めるとともに、虫干しや書架の換気など地域資料の適切な保存・管理方法の整理に取り組む。また、地域資料の利活用を促すため、宇都宮ゆかりの著者・作品リストや宇都宮に関するブックリストの更新作業を行うほか、講座等事業において地域資料やデジタルアーカイブを紹介・活用していく。</li> <li>・マイクロフィルムをより適切な環境で保存するため保管用のキャビネットを更新するとともに、今後の地域資料の収集・保存方法を整理する。</li> <li>・視聴覚ライブラリーにおいては、地域映像教材保存事業を強化し、学校教育及び社会教育におけるメディア教育の振興を目指す。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な地域資料のデジタルアーカイブ事業</li> </ul> <p>【読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料や「宇都宮市図書館デジタルアーカイブ」を活用した講座</li> </ul> <p>【大学等】</p>	
		61	●		ビジネス活動に必要な資料・情報の提供	本市の産業の創出と中小企業の活性化を図るため、関係機関等と連携し、ビジネスに関する資料や情報の収集・提供や事業を実施し、ビジネス支援サービスを行う。	図書館 産業政策課 商工振興課 農林生産流通課	ビジネス資料・情報提供数(件)	実績	95	104	125										東図書館にてビジネス関連事業(講座・相談会など)を実施。関連機関で実施する事業へ、資料や情報の提供を実施。関連機関のメールマガジンやSNSを活用してビジネス情報を提供。	A 計画以上	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外と連携した事業の実施により、図書館利用者以外へもビジネスに役立つ情報の提供を行うことができています。</li> <li>・さらに多くの市民が図書館をビジネスに活用できるよう、ビジネス支援サービスについて広く市民に周知する必要があります。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス関連資料の収集や事業の充実を図り、図書館の機能を活用した中小企業の発展に寄与していく。</li> <li>・ビジネス支援サービスについて広く市民にPRするため、YouTubeや他機関のSNSを活用した情報提供に引き続き取り組む。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス支援講座の動画配信(東)</li> </ul> <p>【読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス支援関連講座(東)</li> <li>・アグリビジネス支援関連講座(東)</li> </ul> <p>【大学等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談会やセミナー等関係機関との連携事業(東)</li> <li>・関係機関への資料等の提供(東)</li> <li>・ビジネス支援について周知パネル展等(東)</li> </ul>
		62			学習情報提供事業・学習相談事業の充実	市民一人ひとりの主体的な学習活動を支援するため、生涯学習情報提供システムへの登録情報に団体・サークルや講師等のほか読書に関する情報に加え、多様な学習情報の積極的な情報発信に取り組む。	生涯学習課(図書館)	マナビ登録件数(件)	実績	4,971	5,094	4,210											マナビの登録件数について、年に50件ずつ増加させていく。	B 計画どおり	○	○	<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既に生涯学習情報提供システムに登録されている団体については、最新の情報を掲載するため、団体、施設について更新を行うほか、イベント・講座情報については常に新しい情報を登録するなど、多様な学習情報を提供した。</li> <li>・主体的な学習活動を支援するため、引き続き、市民への情報発信に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人ひとりの主体的な学習活動を支援するため、引き続き、市民への情報発信に取り組むとともに、団体・サークルや講師等の多様な学習情報を登録し、マナビの利用促進を図るとともに、公共施設予約システムとの役割分担を整理しながら、令和8年度の改修に向けて適切な登録内容や方法について検討する。</li> </ul>
63			社会教育主事の養成・活躍促進	市民の学習活動の推進や、学校・家庭・地域の連携促進のため、大学と連携した養成事業を実施するとともに、各生涯学習センター等における地域との連携窓口としての中心的な役割を担うなど、活用促進を図る。	生涯学習課	生涯学習センターに配置されている社会教育主事の有資格者数(人)	実績	18	18	18											全生涯学習センター(18センター)に配置できる人数を目指す。	A 計画以上			<p>[昨年度の評価(成果や課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域教育推進の中心的な役割を担う社会教育主事を育成するため、宇都宮大学が主催する社会教育主事講習に職員を派遣し、社会教育主事有資格者の養成に取り組んだ。</li> <li>・講習期間が長期になることから、生涯学習センター職員が受講しやすい環境整備が必要となる。</li> </ul> <p>[今年度の取組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育主事の資格取得に意欲がある生涯学習に携わる職員が確実な受講につながるよう、講習期間中の生涯学習センター等の業務に対する支援を実施する。</li> </ul>	<p>【デジタル】</p>	